

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500206		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホームくめの里		
所在地	山口県周南市大字久米字沢田1416-1		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町受理日	令和3年6月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和3年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年に事業所を立ち上げてほぼ9年が経ち、地域の方々の事業所への知名度は高まっています。コロナ禍により、今年度は地域の方々ご家族参加のイベントは皆無となりましたが、地域の運動会、敬老会などの行事参加のお誘いは、続いています。地域の方々とコミュニケーションを大事に、たとえ認知症になったとしても、自分らしく生きがいをもって、生き生きと暮らしていただけるよう努めています。法人内での研修により、スタッフは日々自己研鑽に励み、認知症に特化した対応ができるよう努力しています。日々の生活の中でも、レクリエーションの提供はもちろんですが、かつては当たり前のように行っていた家事作業、排泄は必ずトイレで、という生活リハビリにも力を入れています。お一人お一人の心身の状況に合わせ、今持っている力を発揮し、張り合いのある暮らしをしていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍により法人研修を、各施設からの事例発表を書類で配布し、発表者に参加者の感想や疑問点などを直接文章で伝える研修体制に変更されました。事業所では毎月の定例ミーティングの場で、認知症や緊急時の対応についての内部研修を行っておられ、職員は、そこで学んだ認知症の理解と対応の留意点や、利用者の尊厳を守る対応などについて、自分の経験を交えて考察された事例発表をされています。事業所や他施設の職員も自分の事と捉えて、発表者にダイレクトに感想や意見を文章で届けておられ、改めて一緒に事例を見直して、利用者がどうありたいか、どのように接して欲しいのかを検討され、利用者への理解を深めておられます。認知症の症状をもどかしいと思うのではなく、横に座って話を聞かれ、できることを一緒にしましょうと、利用者に寄り添われ、尊厳を守る声かけや対応をされて、利用者が穏やかに落ち着いて生活できるような支援をしておられます。職員は、良好なコミュニケーションのもと、利用者の意向に沿った介護計画とケア、介護記録とが結び付けられるようになり、お互いに協力し合ってケアに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は苑内に掲示し、常にスタッフの目が届くようにしている。くめの里の基本理念にある、「その人らしさ」を大切に地域の中で生き生きと暮らしていただけるよう実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、法人の理念と共に、事業所内に掲示している。管理者と職員は、理念を常に目にして共有し、利用者の地域の中での生活の継続につなげている。定例ミーティングで理念について話し合い、ケアプランに「その人らしさ」を反映させて、おしゃれや音楽を楽しめるよう支援するなど、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の方々への行事のお誘い、また地域の行事参加は行えなかったが、お知らせ等は絶えることがなく、事業所からも運営推進会議の資料などを推進会議メンバーにもなっている、自治会会長、地区防災会長等に送り、事業所の状況を伝えている。	自治会に加入し、管理者が地区自主防災組織の訓練に参加したり、事業所の行事へ地域の人の参加を得たりしていたが、コロナ禍により中断している。市の介護相談員やボランティアの来訪も中断している。運営推進会議の地域メンバーには資料を送付し、事業所の状況を伝えている。管理者は、中学校にライフデザインの講師として出向き、介護の仕事の紹介をしている。近隣の入所待機者が増えるなど、地域の人の事業所への認知は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を立ち上げて10年近く経た現在、地区での知名度も上がっており、近隣の方々の入居の申し込み、相談も多くなっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	週3日のパートスタッフも含め、スタッフ全員が自己評価に取り組んだ。それによりスタッフ自身が評価の意義の理解も深まったことで、具体的な改善の在り方が見えてきたと思う。	自己評価は、管理者が評価の意義を定例ミーティングで職員に説明し、全職員に評価のための書類を配布して記入してもらい、管理者がまとめている。職員は自己評価の過程で、今行っている仕事を振り返り、仕事に求められていることを確認することができている。前回の外部評価を受けて、全職員が緊急時対応の技術を習得することを目指達成計画に掲げ、研修や定例ミーティングを通して改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス拡大防止対策により、会議そのものを開催することはできなかったが、資料により評価の取り組み状況等についての報告は行っている。	コロナ禍のためこの1年、会議は中止している。メンバーには、運営状況、利用者動向、事故、行事、身体拘束委員会報告などの資料を送付している。質問や意見はない。運営推進会議資料、議事録はいつでも閲覧できるように事務所の入り口に置いている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議資料配布の際に実情や取り組みについて担当者に伝えている。いつでも協力して頂けるよう、良好な関係の構築に努めている。	市担当者とは、運営推進会議議事録送付時に、事業所の状況や取り組みについて伝えて相談し、助言を得ている他、市からメールで県からの情報を得て、分からないことを教えもらうなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、入居申し込みの問い合わせを受け、待機者情報を提供するなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の「身体拘束委員会」にスタッフがメンバーとして毎月参加し、勉強会を行い、その結果を月一回の定例ミーティングで伝えている。年に2度法人内研修にて事例発表があり、くめの里でも事例をあげ、尊厳を守る対応に取り組んでいる。スタッフ全員が身体拘束の理解を深め、身体拘束の無いケアを実践している。	「身体拘束防止対策マニュアル」「身体拘束適正化に関わる指針」がある。月1回の法人の身体拘束委員会に職員2名が参加し、定例ミーティングで復伝している。気になる対応について事例を検討し、法人の年2回の身体拘束防止の為の事例報告会で発表して、職員自身が今までの対応を振り返り、何が間違っていたのか、どのような対応が望ましいか確認し改善に取り組んでいる。スピーチロックなど気になる場所があれば、管理者が指導したり、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修煮て、虐待についての勉強会が年に2回行われ、学習する機会を設けている。虐待に繋がる言葉、態度などはどういうものかという事を学び、日々の対応で適切であるかどうかの確認を継続している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で一人成年後見制度を利用されている方がおられ、スタッフ全員が権利擁護を学んでいる。法人内研修でも学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また変更などがあった場合はその内容を文書、口頭で説明し、理解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制は整っている。スタッフの誰が苦情を受けても同様の対応をとるようにしている。運営推進会議の場でも苦情の内容と対応について報告を行い、検討し、サービスの質の向上に努めている。	相談や苦情の受け付け体制、第三者委員、処理手続きを重要事項説明書に明示し、契約時に家族に説明している。家族の意見は、面会時、運営推進会議資料送付時、介護計画作成時、電話などで聞いている。毎月、利用者の近況を手紙で伝え、意見や要望を出しやすいよう工夫している。家族からの要望があれば、ケア記録や業務日誌に記載し、職員間で情報を共有し、職員が話し合っ、要望に沿ったケアに取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例ミーティングの場には、必ず副施設長が参加し、運営に関するスタッフの意見や提案を聞き、出来る限り反映させている。	副施設長も参加して月1回、定例ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞いている他、管理者は日常業務の中で、職員の意見や提案を聞いている。職員が法人の身体拘束委員会や事故防止委員会に参加し、代表者や管理者は意見を聞いている。利用者の状態を見てシフトの流れを改善したり、DVD機器の更新やシャワーチェア設置、イベント企画など、職員の意見を、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇の取得などを含め、スタッフが働きやすく、楽しくやりがいを持てるよう条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	コロナ禍により法人内研修は資料配布となっ たが、スタッフ全員が質問、感想などを必ず 資料作成者に届け、手ごたえのある研修とな るよう努めている。また、外部の研修につい ても、研修案内はスタッフの目の届く場所に 置き、個々人が望む研修には参加できるよう にしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会 を提供している。コロナ禍のため、この1年は 外部研修の参加はない。法人研修は、各事 業所からの事例検討の形で、看取り(2)、感 染(2)、身体拘束(2)、虐待(2)、事故の分析 などの内容で、月1回実施している。職員は 資料を準備して文書発表し、参加者も自分の 事と捉えて、事例発表者に感想や疑問点な どを文章で届けている。法人内の他事業所か らもダイレクトに感想や疑問点が届き、改めて 事例の見直しをすることにより、前向きに学ん でいる。内部研修は、毎月の定例ミーティング の場で、認知症や緊急時の対応についての 学習会を行っている。新人は、管理者が日常 業務の中で助言し指導している。月1回、法 人内で資格取得のための勉強会を開催し、 支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	法人内研修や、外部研修の場で、同業者と の交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、面接を行い、信頼を得ることで 何でも言いやすい、話しやすい関係づくりに 努めている。ご本人が安心して何でも話すこ とができる関係が望ましい、と考えている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居の申し込みの段階より、ご家族の困りご との相談を受けている。場合によっては事業 所以外のサービスの特性などの説明も行って いる。困っていることを何でも話し合える関 係づくりを目指している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の話を傾聴し、何が必要かと いう事を見極められるよう努力している。時に 言葉にしている事よりも、表情、態度などに 現れてくることもあるので、見落としがないよ うに、対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などまだ行える入居者様もいらっしゃるので、毎日作業をしていただいている。仕事がある、ととても喜ばれ、スタッフも頼もしく思っている。どんなことでも、お一人お一人の力に注目し活躍して頂けるよう対応している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナ禍でご家族の意見を聞く機会が少なかったが、毎月のお手紙で、入居者様のご様子をお知らせし、何か気になることがあれば何でも話した抱けるような関係づくりに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でご家族の面会は少なくなっているが、年賀状、暑中見舞い、電話、お手紙などで、なじみの方々との関係が途切れないように支援している。	コロナ禍による面会制限の解除期(R2.6月15日から7月31日、11月15日)には、家族の面会や親せき、友人、知人の来訪があり、玄関先での検温や消毒を行い、時間制限をした上で居室での面会を支援している。電話や年賀状、暑中見舞いなどでの交流の支援をしている。家族に利用者の様子を伝えるため、月1回、利用者を担当する職員が、写真に手紙を添えて送付するなど、工夫して関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の生活歴、性格などを把握し、お互いに関わり合えるような関係づくりを支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時にサービス終了後もご家族より連絡がある。必要な相談支援は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の表情で、お好みの事柄やしてもらいたいことを把握できるように努めている。ご本人がどうありたいか、という事を最優先にした対応を心掛けている。	入居時に本人や家族から聞き取りをしたアセスメントシートを活用している。日々の関わりの中での、利用者の言葉や表情、行動を、24時間支援ノートや業務日誌に記録し、月一回の定例ミーティングで、ユニットごとに検討して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から聞いて職員間で話し合い、本人本意に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接でご家族、ご本人より聞き取りを行っている。また入居後もご本人が話されている事を聞き、性格や生活環境などの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から現状の問題点や、今後にかける行動等の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向や、ご家族の意見を元に医療職や、介護職員がカンファレンスを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に管理者が家族と面談し、アセスメントシートに沿って、利用者や家族の意向や本人の身体状況等を把握し、介護計画を作成している。その後は、利用者を担当している職員と計画作成者が中心となって、看護師や他の職員なども参加して担当者会議を開き、利用者や家族の思いや意向、医師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎日の計画の実施状況をケア記録に記録し、6か月毎に評価表を作成してモニタリングを実施し、計画の見直しをしている。利用者の状態や家族の意向に変化があれば、その都度見直して、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、ケアの実践、気付きはケア記録に記入している。記入することで、スタッフ全員が情報を共有することができ、結果の良かった対応などを参考にしている。またサービス内容の実施なども細かく記しているため、介護計画作成時、見直し時に活かされている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの訪問、介護相談員の面会など幅広くご家族やご本人のニーズに対応すべく取り組んでいたが、今年度はコロナ禍で、叶わずにいる。訪問美容はかろうじて続いています。コロナ禍であるからこそそのサービスの多機能化についても考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に神社や公園があるが、コロナ禍で外出がままならなかった。大型スーパーができ、バリアフリーで売り場が大きく、車椅子にやさしいつくりとなっている。コロナ禍が落ち着いたら出かけてみたいと思っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは看護師を通して24時間オンコールでつながっているため、緊急時の指示も受けることができる。2週間ごとの往診と、丁寧な説明で、いつでも適切な医療を受けられるようになっている。	本人や家族の納得を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療を受けている。受診時には看護師が情報伝達表で、利用者の状態を伝えている。他科は、家族の協力を得て、受診の支援をしている。受診結果は、業務日誌に記録して職員間で共有し、家族には電話で報告している。毎日、法人の看護師と利用者の状態などの情報交換をし、適切な指示を得て、医師と連携している。夜間や緊急時には、管理者や看護師に連絡し、医師の指示をえて、適切な医療を受けられるようにしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、毎日情報を送っている。必要時には24時間体制で看護師に相談し指示を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院する場合には、必要とされる情報は全て伝えるようにしている。また退院され帰る際には、医療機関からの情報を元に対応している。退院した後も受診の際などに情報を交換するようにして、関係づくりを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、また介護度が変わった際、と必要に応じて、重度化した場合についての説明をご家族、ご本人に行っている。その都度、事業所で行えることを伝えさせていただいている。	契約時に「重症化した場合における対応に係る指針」「重要事項説明書」に基づいて、家族に事業所でできる対応について説明し、同意書を得ている。実際に重度化した場合は、その都度、家族や医師、看護師らと話し合っ方針を決め、職員間で共有している。法人研修で看取りの支援について学び、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人内研修や、スタッフミーティングの場にて事故防止の取り組みと、事故発生時の備えについて学んでいる。転倒、誤嚥の際などの応急手当や初期対応については、定期的に繰り返し法人内研修にて学ぶ機会がある。	事例が生じた場合は、入居者事故状況報告書や介護保険事業者事故報告書に、概要や原因、対応、予防策などを記録し、管理者や看護師と検討して、申し送り等で、全職員が共有している。月1回のミーティングで再検討し、介護計画に反映させて、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。「事故防止マニュアル」があり、法人研修で感染対策や事故の分析について学んでいる。事例に応じてその都度適切な対応を学び、副施設長(看護師)が、月1回の定例ミーティングの場で、誤嚥、転倒、低体温、浮腫の対応等について研修を行っている。全ての職員が、応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行う避難訓練のうち、一回は必ず災害時訓練を行っている。自身の設定で、地区の公民館まで避難する訓練も行い、地域の協力も得ている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した、通報、避難誘導、初期消火訓練や避難経路の確認を利用者と一緒にやっている。訓練には避難先の公民館職員の参加を得ている。運営推進会議に地区自主防災組織メンバーが参加しており、その都度情報交換をして、地域との協力体制を築くように取り組んでいる。おかゆなどの備蓄食、水、カセットコンロ、懐中電灯などを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、尊厳を守る対応を心掛けている。言葉かけ一つとってみても、事例を挙げ、スタッフ同士で検討し相手にとってどうだろうか、という事を常に考え対応している。	職員は、法人研修で「尊厳を守る対応」の事例発表を行い、日頃の対応について検討し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。気になるところがあれば、管理者や副施設長が指導したり、職員間で注意し合っている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望がどこにあるのか、という事を見極め、その思いを口に出し、もしくは態度に表せる事が出来るような信頼関係を作りあげることが、一番大事だと考える。自己決定ができる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、お一人お一人のペースに合わせた時間の流れに沿って支援できるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服をご自分で選ぶことが出来なくなってしまった入居者様でも、生活歴や、昔の写真などを見て、ご本人に合ったおしゃれが出来るよう支援している。月に一回訪問美容もあり、おしゃれを楽しんでいただけるよう努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが三食手作りしている。お一人お一人の好みを把握し、また食べる力に合わせて提供している。食事の準備ができる入居者様はおられないが、後片付けを嬉々として手伝ってくださっている。	法人の栄養士と看護師が立てた栄養バランスのとれた献立を基に、三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせて、刻み食やミキサー食、とろみ食、おかゆなど、形状を工夫して提供している。利用者一人ひとりの好みに合わせた食品交換や味付けをしている。利用者は、味見、テーブル拭き、下膳、お盆拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にして、職員と同じテーブルを囲んで同じ食事を、会話を楽しみながら食べている。季節の行事食(おせち料理、お花見弁当、紫陽花のゼリー、七夕のそうめん、夏祭りのお弁当、敬老会食、餅つき、年越しそばなど)や誕生日会のケーキ、お菓子作り(和菓子アートで、こいのぼりの手作りお菓子)、ぜんざいなど、食べることが楽しみになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度の体重測定、年に一度の定期健診の結果に基づき、ご本人の食べる量や栄養バランスを考えている。水分が進まない入居者様には、おかゆを提供したりと、工夫しながら支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清掃を行っている。スポンジやモアブラシなどを使用し、口腔内が清潔に保てるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間の排泄表を使用し、排泄パターンの把握に努めている。オムツは使用せず全員がトイレを利用されている。排泄の失敗がないように、お一人お一人の合った時間のトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせて声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹筋運動や歩行、車椅子の足こぎ移動など、お一人お一人に合った運動で、便秘の予防対策を行っている。腹部の温ちゃんや腹部マッサージなども毎日行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回以上入浴できるようになっている、希望があれば毎日でも入浴できる。ご本人のタイミングに合わせた入浴を支援している。	入浴は、毎日13時から16時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週3回は入浴できるように支援している。希望があれば毎日でも入浴できる。利用者の状態に合わせて、特殊浴での入浴、シャワー浴、足浴、部分浴の支援をしている。入浴の順番や好みの湯加減を調整し、利用者が歌を歌ったり、職員と会話をしたりと入浴を楽しめるよう工夫している。入浴をしたくない利用者には、時間を変更したり、職員を交代する、言葉かけを工夫するなどして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気が強ければ、居室で休まれたり、ソファでくつろいでいただいたり、休息はいつでもとることができるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況については、スタッフがお薬の情報を把握している。また新しく処方が出た場合には、お薬情報をもとに、副作用、用法を把握し、症状観察を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様お一人お一人の得意なこと、好きな事を見極め、意欲的な日々を過ごしていただけるよう支援している。今持っている力を最大限発揮できるような環境を整え、役割を持ち張り切ってもらえるよう努めている。	季節の行事(ひな祭り、苑内花見、お菓子作り、くめの里夏祭り、ミニ運動会、敬老会、クリスマス会、もちつき、初詣イベント)、誕生会、テレビ(歌番組、笑点、スポーツ番組、昭和史、日本昔話、動物番組)やDVDの視聴、新聞や週刊誌、童話を読む、歌を歌う、ちぎり絵、折り紙、月毎の作品づくり(季節の飾り)、風船バレー、魚釣りゲーム、景品釣りゲーム、かるた、百人一首などを楽しんでいる。モップかけ、掃除、シーツ交換、窓拭き、カーテンの開閉、食事の準備や片づけ、草取り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、縫物(他利用者の繕い物、雑巾、ふきん縫い)など、得意なことを活かして、活躍できる場面をつくっている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、今年度は、外出が出来なくなっている。	面会制限を行った令和2年3月以降の外出は、11月に検診で協力医院へ行ったのみとなっている。敷地内の駐車場での夏祭りや気候が良い時期の散歩を楽しんでいる。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は苑内ではもたないことになっているが、買い物レクなどの際には、お金を所持して頂き、自分で支払いなども行ってもらよう支援しているが、今年度はできていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話、お手紙など関係が今までと同じように続けることができるよう支援している。暑中見舞い、年賀状は必ずご家族に出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁紙は、毎月季節に合わせて変えている。日中と夜間の2回フロアなど共有の空間の掃除を行い何時も清潔を保っている。キッチンで毎食作るの、お料理のにおいが食欲をそそっている。フロアの日当たりも良く、窓からは町のシンボルである工場が良く見える。トイレには間違えないように大きく「トイレ」と紙を貼っている。フロアからトイレまでの導線もスムーズである。	リビングダイニングは、明るく広々としている。二つのユニットは間仕切りで分けてあり、利用者はお互いに行き来して交流できる。テーブルや椅子、テレビやソファを配置し、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。壁面には、利用者と職員が一緒に作った季節の作品や飾り付け(12月はクリスマスツリー、3月はお雛様の段飾、4月は桜飾りなど)をし、玄関には季節の花を生けて、季節感を取り入れている。対面キッチンからは食事づくりの音や匂いがして、生活の営みを感じることができる。温度や湿度、換気、清潔に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、テレビを見たり、スタッフや利用者様同士で談笑できるような環境づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたお布団や、なじみの家具などを持ち込まれゆったりと過ごされている。仏壇を持ち込まれている方もおり、ご本人が納得し、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	整理ダンス、テーブル、椅子、ソファ、ハンガーラック、テレビ、仏壇、時計、鏡、衣類、化粧品、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、自分の作品や家族の写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、床はバリアフリーとなっているため、杖歩行の方や車椅子を自走する方は安全に移動できる。トイレやキッチン、浴室などは分かりやすい場所にあり、迷うことは少ない。トイレには「トイレ」と大きく張り紙をし、迷うことがないように配慮している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームくめの里

作成日: 令和 3 年 6 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるために、定期的な訓練を行う必要がある。	定期的に緊急時対応の訓練を行い、実践力を全職員が身に付ける。	定例ミーティングや研修の際に、事故を想定してのシュミレーションを行い、初期対応、応急処置の知識、実践力を身に付けていく。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。